



Warsaw Philharmonic

The National
Orchestra & Choir
of Poland

Andrzej Boreyko, Music and Artistic Director

Japan Tour 2024

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

音楽芸術監督: アンドレイ・ボレイコ

2024年 日本公演

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

音楽芸術監督: アンドレイ・ボレイコ

2024年 日本公演

Andrzej Boreyko, Music and Artistic Director

Japan Tour 2024



Warsaw
Philharmonic

The National
Orchestra & Choir
of Poland

2.7 水 14:00 東京 サントリーホール

February 7 Wed. 14:00 Tokyo Suntory Hall

ショパン: ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11 (ピアノ: 亀井聖矢)

F. Chopin: Piano Concerto No.1 in E minor, Op.11

(Piano: Masaya Kamei)

第1楽章: アレグロ・マエストーソ

1st Mov.: Allegro maestoso

第2楽章: ロマンズ、ラルゲット

2nd Mov.: Romanze. Larghetto

第3楽章: ロンド、ヴィヴァーチェ

3rd Mov.: Rondo. Vivace

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 Op.92

L. v. Beethoven: Symphony No.7 in A major, Op.92

第1楽章: ポコ・ソステヌート — ヴィヴァーチェ

1st Mov.: Poco sostenuto — Vivace

第2楽章: アレグレット

2nd Mov.: Allegretto

第3楽章: プレスト

3rd Mov.: Presto

第4楽章: アレグロ・コン・ブリオ

4th Mov.: Allegro con brio

2.7 水 19:00 東京 サントリーホール

February 7 Wed. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ルトスワフスキ: 小組曲

W. Lutosławski: Little Suite

第1曲: 笛 第2曲: 万歳ポルカ 第3曲: 歌 第4曲: 踊り

I. Fife II. Hurra Polka III. Song IV. Dance

ショパン: ピアノ協奏曲第2番 ヘ短調 Op.21 (ピアノ: ブルース・リウ)

F. Chopin: Piano Concerto No.2 in F minor, Op.21

(Piano: Bruce Liu)

第1楽章: マエストーソ

1st Mov.: Maestoso

第2楽章: ラルゲット

2nd Mov.: Larghetto

第3楽章: アレグロ・ヴィヴァーチェ

3rd Mov.: Allegro vivace

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 Op.92

L. v. Beethoven: Symphony No.7 in A major, Op.92

第1楽章: ポーコ・ソステヌート — ヴィヴァーチェ

1st Mov.: Poco sostenuto — Vivace

第2楽章: アレグレット

2nd Mov.: Allegretto

第3楽章: プレスト

3rd Mov.: Presto

第4楽章: アレグロ・コン・ブリオ

4th Mov.: Allegro con brio

出演者の希望により当初予定から曲目に変更がございます。

2.8 木 19:00 東京 サントリーホール

February 8 Thu. 19:00 Tokyo Suntory Hall

ルトスワフスキ: 小組曲

W. Lutosławski: Little Suite

第1曲: 笛 第2曲: 万歳ポルカ 第3曲: 歌 第4曲: 踊り

I. Fife II. Hurra Polka III. Song IV. Dance

シューマン: ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54 (ピアノ: ラファウ・ブレハッチ)

R. Schumann: Piano Concerto in A minor, Op.54

(Piano: Rafał Blechacz)

第1楽章: アレグロ・アフエットゥオーソ

1st Mov.: Allegro affettuoso

第2楽章: インテルメzzo、アンダンテ・グラツィオーソ

2nd Mov.: Intermezzo. Andante grazioso

第3楽章: アレグロ・ヴィヴァーチェ

3rd Mov.: Allegro vivace

ブラームス: 交響曲第2番 ニ長調 Op.73

J. Brahms: Symphony No.2 in D major, Op.73

第1楽章: アレグロ・ノン・トロッポ

1st Mov.: Allegro non troppo

第2楽章: アダージョ・ノン・トロッポ

2nd Mov.: Adagio non troppo

第3楽章: アレグレット・グラツィオーソ [クワジ・アンダンティーノ]

3rd Mov.: Allegretto grazioso [Quasi andantino]

第4楽章: アレグロ・コン・スピリート

4th Mov.: Allegro con spirito

[主催] ジャパン・アーツ

[後援] 駐日ポーランド共和国大使館



ポーランド広報文化センター



[協力] ユニバーサル ミュージック

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団 2024年日本公演

2/4(日) 大阪 ザ・シンフォニーホール

主催: ABCテレビ ★

2/5(月) 福岡 アクロス福岡シンフォニーホール

主催: テレQ、(公財)アクロス福岡 ★

2/7(水) 屋 東京 サントリーホール

主催: ジャパン・アーツ ▲

2/7(水) 夜 東京 サントリーホール

主催: ジャパン・アーツ ★

2/8(木) 東京 サントリーホール

主催: ジャパン・アーツ ◎

2/11(日・祝) 横浜 横浜みなとみらいホール

主催: 神奈川芸術協会 協力: 横浜みなとみらいホール ★

★ブルース・リウ ◎ラファウ・ブレハッチ ▲亀井聖矢



アンドレイ・ボレイコ

(音楽芸術監督)

Andrzej Boreyko

Music and Artistic Director

©Michał Zagórny

2023/24年は、アンドレイ・ボレイコがワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団の音楽芸術監督として5年目のシーズンを迎える。昨シーズンは、同楽団の120周年を一緒に祝っている。これまでに、ワルシャワ・フィルとともにヨーロッパ、アジア、そしてアメリカ・ツアーを行い、2024年本公演で日本と韓国を訪れている。今シーズンは、ペンデレツキ音楽祭、ベートーヴェン復活祭音楽祭、ショパン・アンド・ヒズ・ヨーロッパ・フェスティバルに出演し、グレツキの大作で「悲歌のシンフォニー」として知られる「交響曲第3番」を演奏する。

常任指揮者を務めるミラノ交響楽団では2シーズン目を迎え、2023/24年シーズンの開幕公演をミラノ・スカラ座にて、マーラー《大地の歌》と、ベートーヴェン「交響曲第5番」を組み合わせたプログラムを指揮し、さらにマーラー・フェスティバルの開幕公演でも、マーラー「交響曲第2番」を指揮した。

昨シーズンは、ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン放送交響楽団に再客演し、大成功を収めた。その他2023/24年シーズンのハイライトとしては、ウィーン放送交響楽団、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管弦楽団、ポーランド国立放送交響楽団、プラハ交響楽団、ストラスブール・フィルハーモニー管弦楽団、マドリードのRTVE放送交響楽団他が予定されている。

近年、ボレイコは、ベルリン放送交響楽団、モントリオール交響楽団、ガリシア交響楽団、ヴァレンシア管弦楽団、RAI国立交響楽団、ハンブルク・フィルハーモニー州立管弦楽団、クレーヴランド管弦楽団、ソウル・フィルハーモニー管弦楽団、ザルツブルク・モーツァルテウム管弦楽団、そしてシドニー、シアトル、サンフランシスコ、ダラス、そしてヒューストン交響楽団に客演。また、これまでに、ミラノ・スカラ座フィルハーモニー管弦楽団、ロシア国立アカデミー交響楽団、そしてシンフォニア・ヴァルソヴィアなどと欧州ツアーを行っている。

その他、これまでに、イエナ・フィルハーモニー管弦楽団、ハンブルク交響楽団、ベルン交響楽団、デュッセルドルフ交響楽団、ウィニペグ交響楽団、ベルギー国立管弦楽団、ネイブルズ・フィルハーモニックの音楽監督を歴任した。

Andrzej Boreyko
Music and Artistic Director



©Wiktor Zdrojewski

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

Warsaw Philharmonic Orchestra

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、最初の公演を1901年11月5日に新たに建設されたフィルハーモニー・ホールの柿落しとして行った。指揮は楽団の共同創設者にして初代音楽監督兼常任指揮者のエミール・ムリナルスキ、ピアノ独奏はイグナツィ・ヤン・パデレフスキが務めた。

第一次世界大戦前から第二次世界大戦までの間に、ワルシャワ・フィルはすでにポーランド音楽界の中心的存在、そしてヨーロッパの音楽界においても主要な団体のひとつとなっていた。第二次世界大戦直後、楽団の公演は劇場やスポーツ施設にて行われていたが、1955年2月21日、ドイツ軍の空襲によって破壊されたホールの代わりに再建された本拠地「フィルハーモニー・ホール」が

開場し、オーケストラは国立管弦楽団の称号を与えられた。新監督ヴィトルド・ロヴィツキのもと、ポーランドを代表するオーケストラとしての地位を取り戻した。

1955-58年には芸術監督にボーダン・ヴォディチコが就任、その後再びロヴィツキ、そして1977年からはカジミエシュ・コルトが就任。2002年1月から2013年8月にはアントニ・ヴィットがワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団の総監督兼芸術監督に就任。2013/14年シーズンは芸術監督をやツェク・カスプリクが務め、2019/20年シーズンより音楽芸術監督にアンドレイ・ボレイコが就任している。

今日、ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、世界的人気と高い評価を確立。5つの大陸で150以上ものコンサート・ツアーを行い、世界の主要なコンサート・ホールで演奏している。ショパン国際ピアノ・コンクールや「ワルシャワの秋」現代音楽祭でも定期的に演奏を続けている。ポーランド放送や国営テレビ(TVP)、ポーランド国内外のレコード・レーベル及び映画会社との録音も行っている。

録音関連の受賞歴は、ペンデレツキやシマノフスキの壮大なスケールの声楽曲や器楽曲で2013年グラミー賞(6つのノミネーションを含む)を受賞した他、ディアパソン・ドール、ICMA(国際クラシック音楽賞)、グラモフォン賞、レコード芸術アカデミー賞、クラシカル・インターネット・アワード、カンヌ・クラシカル・アワード、ポーランド・フォノグラフィック・アカデミーのフレデリック・アワードなど数多くの榮譽ある賞を受賞している。



Warsaw Philharmonic Orchestra



Poland.
Heritage that drives
the future

Discover Poland at Expo 2025 Osaka, Kansai!
EXPO2025大阪・関西万博でポーランドの魅力を発見しましょう!
www.expo.gov.pl



©Yuji Ueno

亀井聖矢

(ピアノ)

Masaya Kamei
Piano

2022年、ロン=ティボー国際音楽コンクールにて第1位を受賞。併せて「聴衆賞」「評論家賞」の2つの特別賞を受賞。

2001年生まれ。4歳よりピアノを始める。2019年、第88回日本音楽コンクールのピアノ部門第1位、及び聴衆賞受賞。同年、第43回ピティナ・ピアノコンペティション特級グランプリ、及び聴衆賞受賞。2022年、マリア・カナルス国際ピアノコンクール第3位受賞。ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール、セミファイナリスト。

これまでに、飯守泰次郎、石崎真弥奈、井上道義、梅田俊明、海老原光、円光寺雅彦、大井剛史、太田弦、大友直人、沖澤のどか、尾高忠明、カーチン・ウォン、川瀬賢太郎、坂入健司郎、佐藤俊太郎、出口大地、沼尻竜典、原田慶太楼、広上淳一、藤岡幸

夫、松井慶太、松本宗利音、山下一史、渡邊一正の各氏の指揮で、NHK交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、オーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、京都市交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、セントラル愛知交響楽団、札幌交響楽団、群馬交響楽団などと共演。「世界一受けたい授業」「日曜日の初耳学」「題名のない音楽会」などメディア出演も多数。

愛知県立明和高等学校音楽科を経て、飛び入学特待生として桐朋学園大学に入学し、2023年3月に同大学を首席で卒業。2023年には、文化庁長官表彰(国際芸術部門)、出光音楽賞、岐阜県芸術文化奨励賞、愛知県芸術文化選奨文化新人賞を受賞。2021-22年度公益財団法人ロームミュージックファンデーション奨学生。第51回公益財団法人江副記念リクルート財団奨学生。

現在、カールスルーエ音楽大学、桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコースに在籍中。これまでに、青木真由子、杉浦日出夫、上野久子、岡本美智子、長谷正一、児玉桃の各氏に師事。作曲を鈴木輝昭氏に師事。

Masaya Kamei
Piano



©Yanzhang

ブルース・リウ

(ピアノ)

Bruce Liu
Piano

2021年第18回ショパン国際ピアノコンクール優勝。「息をのむような美しさ」(BBCミュージック・マガジン誌)の演奏で、この世代で最もエキサイティングな才能を持つピアニストとの評判を確立した。

2023/24年シーズンは、パーヴォ・ヤルヴィ/チューリッヒ・トーンハレ管弦楽団、サントゥ=マティアス・ロウヴァリ/フィルハーモニア管弦楽団、アンドレイ・ボレイコ/ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団とのツアー、ニューヨーク・フィルハーモニック、フィンランド放送交響楽団、デンマーク国立交響楽団などと共演、また、グスターボ・ヒメノ、ヤニック・ネゼ=セガン、ジャンドレア・ノセダ、ラファエル・パヤレ、ヴァシリー・ペトレンコ、ユッカ=ベッカ・サラステ、ラハフ・シャニなどとの共演がある。

これまでに、ウィーン交響楽団、ロツテルダム・フィルハーモニー管弦楽団、ルクセンブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団、サンフランシスコ交響楽団、フィラデルフィア管弦楽団、モンリオール交響楽団、NHK交響楽団などの主要オーケストラと共演し、カーネギーホール、ウィーン・コンツェルトハウス、東京オペラシティなどでリサイタルを行う他、2023/24年シーズンには、アムステルダム・コンセルトヘボウホール、パリ・フィルハーモニー、ロンドン・ウイグモアホール、フランクフルト・アルテ・オーパーなどでリサイタル・デビューを果たす。

近年では、ラインガウ、ラ・ロック・ダンテロン、ヴェルビエ、ルール、エジンバラ、グスタフ、グシュタード・メニューイン、タングルウッドなどの音楽祭に出演。

ドイツ・グラモフォンの専属レコーディング・アーティスト。ラモー、ラヴェル、アルカンなど、2世紀にわたるフランス音楽を収録した待望のデビュー・アルバム『Waves』は、2023年11月にリリースされた。ショパン国際ピアノコンクールの入賞作品を収録したファースト・アルバムは、グラモフォン誌の批評家賞、編集者賞、グラモフォン「2021年のベスト・クラシック・アルバム賞」を受賞するなど、国際的に高い評価を得た。

リチャード・レイモンドとダン・タイ・ソンに師事。中国人の両親のもとにパリで生まれ、モンリオールで育った。リウの驚異的な芸術性は、ヨーロッパの洗練、北米のダイナミズム、そして中国文化の長い伝統といった多文化の遺産によって形作られてきた。

Bruce Liu
Piano



ラファウ・ブレハッチ

(ピアノ)

Rafał Blechacz

Piano

©Christoph Köstlin

2005年、第15回ショパン国際ピアノコンクール優勝。マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ソナタ賞(クリスチャン・ツィメルマンにより創設)、聴衆賞と全てを同時受賞。同世代で最高のショパン弾きと称される。レパートリーはバッハ、モーツァルト、ベートーヴェン、リスト、ブラームス、ドビュッシー、シマノフスキと広げ続け、ドイツ・グラモフォンより多くのアルバムをリリース。活動が高く評価され、2014年には「ピアノのノーベル賞」とも称されるギルモア賞を受賞。

1985年ポーランドのナクウォ・ナデ・ノテシオン生まれ。ナワヴェジスキ音楽大学にてカテリーナ・ポヴァ=ズイドロン教授に師事、2007年に卒業。在学中より、第13回ヨハン・セバスチャン・バッハ・ポーランド全国コンクール第1位およびグランプリ(1996年)、第5回A. ルービンシュタイン国際青少年ピアノ・コンクール第2位(2002年、ビドゴシチ)、第5回浜松国際ピアノ・コンクールの1位なしの第2位(2003年)など数々の賞を受賞。

ショパン国際ピアノコンクール優勝後は、ウィーン楽友協会、ベルリン・フィルハーモニー、コンセルトヘボウ・ホール、パリのサル・プレイエルなど世界の名だたるホールで演奏、ザルツブルク、ヴェルビエ、ルール・クラヴィア、ギルモアといった主要音楽祭に出演。デュトワ、ゲルギエフ、ハーディング、P. ヤルヴィ、ルイジ、ナガノ、ネルソンス、プレトニョフ、ヴィット、ジンマンなど世界的な指揮者と共演している。

2006年よりドイツ・グラモフォンと専属契約。ポーランド人演奏家としては、クリスチャン・ツィメルマンに続く2人目となった。初のCD『ショパン：前奏曲集』でエコー・クラシック賞、ディアパソン・ドール賞を受賞。セムコフ指揮ロイヤル・コンセルトヘボウ管弦楽団と録音したショパンのピアノ協奏曲第1番、第2番でドイツ・レコード批評家賞を受賞。『ドビュッシー／シマノフスキ』ではエコー・クラシック賞、グラモフォン誌月間ベスト・アルバム、2013年クラシック音楽の最優秀録音としてフレデリック賞を授与された。2013年の『ショパン：ポロネーズ集』は発売と同時にゴールド・レコードに輝き、再びドイツ批評家賞を獲得。2017年にはJ.S.バッハの作品集、2019年にはヴァイオリンのキム・ボムソリと共演した室内楽の作品集、2023年にはショパンのピアノ・ソナタ2番、3番を含むアルバムがリリースされ話題となった。

これらの芸術的功績を讃えて2010年にキジアナ音楽院国際賞、2015年にはポーランド共和国大統領メダルであるポーランド復興勲章カヴァレルスキ十字勲章を授与された。

Rafał Blechacz
Piano



WARSAW PHILHARMONIC ORCHESTRA

Japan Tour 2024

Music and Artistic Director

Andrzej Boreyko

Managing Director

Wojciech Nowak

First Violins

Maria Machowska - *Concertmaster*

Stanisław Podemski

Justyna Bogusiewicz

Kornelia Grądzka

Julia Iwanciw-Gąsior

Joanna Jakobs

Aleksandra Kupczyk

Agnieszka Lewandowska

Jan Lewtak

Grzegorz Osiński

Krzysztof Ploch

Marek Powideł

Michał Szalaach

Krystyna Wilczyńska

Second Violins

Piotr Tadzik

Bogdan Śnieżawski

Dariusz Dęga

Katarzyna Dul

Kristine Harutyunyan

Ada Kozyra-Dobrowolska

Bożena Michalska

Paweł Rybkowski

Piotr Sękowski

Magdalena Smoczyńska

Anna Stokowska

Krzysztof Trzcionkowski

Violas

Marzena Hodyr

Marek Iwański

Agnieszka Duż-Dymus

Katarzyna Henrych

Radosław Jarocki

Tomasz Karwan

Jakub Kowalik

Damian Kułakowski

Agnieszka Podłucka

Krzysztof Szczepański

Cellos

Karolina Jaroszevska-Rajewska

Robert Putowski

Dominik Drewniak

Kazimierz Gruszczynski

Piotr Sapilak

Mateusz Szmyt

Mariusz Tondera

Jerzy Wołochowicz

Double Basses

Janusz Długokęcki

Karol Kowal

Jerzy Cembrzyński

Michał Kotowski

Jakub Langiewicz

Marcin Rybiński

Flutes

Krzysztof Malicki

Urszula Janik-Lipińska

Joanna Gatniejewska

Oboes

Aleksandra Rojek

Piotr Lis

Joanna Monachowicz

Clarinets

Adrian Janda

Grzegorz Wołczański

Karol Sikora

Bassoons

Andrzej Budejko

Leszek Wachnik

Mariusz Oczachowski

Horns

Grzegorz Sabeł

Gabriel Czopka

Aleksander Szebesczyk

Robert Duda

Piotr Kowalski

Trumpets

Kazimierz Adamski

Bogumił Soroka

Dorota Cholewa

Trombones

Andrzej Sienkiewicz

Paweł Cieślak

Krzysztof Kott

Tuba

Arkadiusz Więdlak

Timpani

Piotr Domański

Percussion

Paweł Pruszkowski

- *Orchestra Personnel Manager*

Administration

Tadeusz Boniecki

Piotr Dębski

Stagehands

Rafał Iżykiewicz

Tomasz Śpiewak



■ルトスワフスキ:小組曲

ヴェイトルト・ルトスワフスキ(1913-94)は20世紀ポーランドを代表する作曲家で、新しい流れをリードしつつ国際的に大きな影響を与えた。大戦後、ソ連の影響でポーランドでも社会主義リアリズムが求められるようになった時期には民謡と関わる作品も手掛けたが、その中でも先鋭な書法を取り込んで自身の道を追求している。4曲からなる『小組曲』もそうした時期の所産で、1950年に室内オケのために書かれ、1951年に2管編成のオケ用に改訂された。民俗音楽に基づく作品というポーランド放送からの依頼で書かれた曲で、ポーランド南東部の民俗音楽が素材に用いられているが、それらが和声、音色の扱い、展開法における斬新な工夫のうちに扱われている点がルトスワフスキらしい。

第1曲「笛」はピッコロの牧歌的な調べに始まり、途中には荒々しい動きも現れる。**第2曲「万歳ルカ」**は民俗的旋律と鋭い和声結び付いた急速な舞曲楽章。**第3曲「歌」**は穏やかな旋律が様々な楽器にリレーされていく。**第4曲「踊り」**は活気ある舞曲に基づく主部と情感豊かな民謡旋律に基づく中間部からなる終曲。

■ショパン:ピアノ協奏曲第1番 ホ短調 Op.11

フレデリック・ショパン(1810-49)の作品はほとんどピアノ独奏曲で、本格的なピアノ協奏曲は2つしか残していない。しかも2曲とも彼がまだ母国ポーランドにいた初期の所産である。2曲のうち第1番のほうがあとに書かれており、1829年に恋人を想って書いた第2番に引き続いて1830年(20歳)夏に完成された。第2番同様、ピアノの名技性を生かしたロマン的な感情表現のうちに民俗音楽の語法を取り入れて国民精神を打ち出している点が彼らしい。初演は1830年10月11日ワルシャワで、「ポーランドの民謡による大幻想曲」とともにショパン自身のピアノで行われた。彼はその後国際的な活動を求めてポーランドを出て、以後母国を想いながらもついに生涯帰国する機会を失ってしまう。その意味でこの協奏曲第1番は彼のポーランドへの告別の作となってしまった。

第1楽章(アレグロ・マエストロ)は力強い第1主題と甘美な第2主題を持つ協奏的ソナタ形式をとり、ピアノスティックな技巧をもって華麗に進められる。**第2楽章(ロマンス、ラルゲット)**は静謐な美しさを持つ緩徐楽章で、ショパン自身手紙で「静かで憂鬱なロマンティックなもの……幾多の幸福な追憶を喚起するような、一点を見つめるような印象……春の美しい月光を浴びた瞑想」と記してい

る。**第3楽章(ロンド、ヴィヴァーチェ)**は民俗舞曲風の主題によるロンドで、独奏が鮮やかな名技性を発揮しつつ、軽快かつ華麗な発展を繰り返す。

■ショパン:ピアノ協奏曲第2番 ヘ短調 Op.21

ショパンは初期のポーランド時代に2曲のピアノ協奏曲を生み出した。第2番は第1番に先立って1829年秋から翌年初めにかけて書かれており(番号が後になったのは出版が遅れたため)、その第2楽章についてショパンは友人宛の手紙で憧れの女性を想いながら作曲したことを告白している。彼は1829年の春頃から、ワルシャワ音楽院の音楽科の学生コンスタンツィア・グワドコフスカに片思いしていたのである。この作品にはそうした自身の感情が表出されているが、またそれとともに、ポーランドの民俗音楽の語法が随所に取り入れられている。初演は1830年3月17日ワルシャワで彼自身の独奏でなされている。

第1楽章(マエストロ)は協奏的ソナタ形式で、暗い表情を秘めた第1主題と優美な第2主題を持つ。**第2楽章(ラルゲット)**はロマンティックな憧れに満ちた緩徐楽章。中間部では、恋の不安を表現するかのように弦のトレモロ上でピアノが劇的なモノローグを語る。**第3楽章(アレグロ・ヴィヴァーチェ)**はマズルカ風の主題を中心に繰り返されるフィナーレ。舞踏的な副主題を挟みつつ、活気に満ちて展開され、最後はホルンのシグナルで始まるコーダで鮮やかに締めくくられる。

■シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 Op.54

ドイツ・ロマン派を代表するロベルト・シューマン(1810-56)は若い時期に専らピアノ独奏曲のジャンルで自らの作風を追求した。そして愛するクララとの結婚にこぎつけた1840年、一転して歌曲を集中的に作曲した彼は、翌1841年に今度は管弦楽の作品に挑戦することとなる。この年に書かれた管弦楽作品としては交響曲の第1番「春」や第4番(第1稿)などがあるが、ピアノと管弦楽のための単一楽章構成の「幻想曲」もこの年の重要な所産である。この「幻想曲」は同年クララのピアノで初演されたが、シューマンは4年後の1845年にこれを改訂し、さらに2つの楽章を付け加えた。こうしてピアノ協奏曲イ短調が成立した。ピアノスティックな技巧とシンフォニックな有機性を融合させつつ、シューマン特有の幻想的なロマン性を打ち出した傑作である。

第1楽章(アレグロ・アフエットウオーソ)は先述のように当初単独で「幻想曲」として書かれた楽章



で、強烈な管弦楽の和音にピアノが激しいソロで応えて始まる自由なソナタ形式。**第2楽章**(インテルメッツ、アンダンテ・グラツィオーソ)はインテルメッツの題のとおり間奏的な楽章で、ピアノと管弦楽とが対話風に進み、中間部ではチェロが美しい旋律を歌う。そのまま続く**第3楽章**(アレグロ・ヴィヴァーチェ)はイ長調のソナタ形式のフィナーレで、独奏と管弦楽がシンフォニックに絡みつつ、鮮やかな展開を繰り返す。

■ベートーヴェン:交響曲第7番 イ長調 Op.92

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン(1770-1827)が1811年終りから翌12年にかけて作曲したこの交響曲第7番はリズムという面に特別の重きを置いた作品である。すなわち特定のリズム型を反復させるという手法が曲の主たる構成原理とされている。リズムの持つ根源的な生命力を土台としたこの曲の特質について、のちに大作曲家ワーグナーが「舞踏の神格化」と評したことはよく知られている。また中期から後期への過渡期にあったこの時期のベートーヴェンの特徴であるカンタービレ重視の傾向がはっきり現れている点もこの作品の特徴である。

第1楽章(ポコ・ソステヌート〜ヴィヴァーチェ)は充実した序奏の後、付点リズムの支配する躍動感に満ちた主部が発展していく。**第2楽章**(アレグレット)はタータタ・ターターという行進曲風のリズムを一貫して用いた楽章。**第3楽章**(プレスト)では跳びはねるようなスケルツォと伸びやかなトリオが対照される。**第4楽章**(アレグロ・コン・プリオ)は、激しい力感に満ちたリズムで推進する輝かしいフィナーレである。

■ブラームス:交響曲第2番 ニ長調 Op.73

ヨハネス・ブラームス(1833-97)は最初の交響曲を生み出すのに苦勞し、構想から完成まで20年以上もの歳月をかけた。ベートーヴェンを尊敬し、交響曲のジャンルにおけるこの先人の業績に対する強い意識が交響曲の作曲を慎重なものにさせたからだ。しかし1876年にやっとの思いで交響曲第1番を完成させたブラームスは、あたかも肩の荷がおりたかのように翌1877年6月、ヴェルター湖畔の避暑地ペルチャッハで次の交響曲の創作に着手、早くも秋にこれを完成させる。こうして短期間に書かれた交響曲第2番は、緊張に満ちた第1番とは対照的に、彼のふっきれた心を思わせる伸びやかさと、ペルチャッハの自然を反映するような牧歌的な情感の支配するものとなっ

た。しかしそうした伸びやかさのうちにも暗い陰りが微妙な感情の綾を作り出している点がブラームスらしい。

第1楽章(アレグロ・ノン・トロッポ)は牧歌的な情緒を湛えた曲想の中に孤独な情感を映し出したソナタ形式楽章。**第2楽章**(アダージョ・ノン・トロッポ)はチェロが歌い紡ぐ息の長い主題に始まり、内面の孤独な心情が綴られていく。**第3楽章**(アレグレット・グラツィオーソ [クワジ・アンダンティーノ])はのどかな主部と躍動的なエピソード(プレスト・マ・ノン・アッサイ)が交替する。**第4楽章**(アレグロ・コン・スピリト)は快活に推進する輝かしいソナタ形式のフィナーレで、コーダの高揚感は一圧迫的である。





ARTIST SUPPORT

【アーティストサポート】を通して、
アーティストたちの活動をご支援いただき、ありがとうございます。
時や国を超え「生きる力」を与えてくれる文化・芸術に、
引き続きのご支援をお願い申し上げます。

ご支援をいただいた個人ならびに企業・団体の皆さま

<2023年度年間サポート>

F.A Y.A T.I 井上豊 今井良成 S.U 植原由起子 S.U M.E A.O K.O S.O
片山由美子 河村はるみ K.K 木村美明 M.K 小室秀夫 N.S 新貝康司 N.S M.S
関根一祿 A.D 土屋涼子 トゥルラブ真智子 トゥルラブ真凛 N.N 中島和 中野和枝
中村尚義 中村美穂 T.H N.H M.H 平山美由紀 藤野盾臣 細沼康子 M.H
松尾芳樹 松田香 真野美千代 三橋祐太 J.M H.M H.Y S.Y 渡部伸子
TDK株式会社 MEDIHEAL & SEKIDO コンツェルト・ハウス・ジャパン by 株式会社キタマ
株式会社ソーシャルキャピタルマネジメント 株式会社ロジックアンドエモーション
ライフプラン株式会社 Heart of the Earth 株式会社
ナレッジワーカーズインスティテュート株式会社 株式会社RINABO きづきアセット株式会社
株式会社青林堂 日本パデレフスキ協会 淡路 (匿名希望 26名)

<館野泉バースデープロジェクト>

Y.A 阿部将任・登美子 新井京子 池田光世 一柳吉子 A.I 遠藤一秀 大嶋早苗 大嶋浩美
大谷恵美子 S.O 奥田三華 小畑裕子 木全恵美子 久保春代 M.K 黒川智恵美 黒住彰子
斉藤久子 坂井和 佐々木暁子 菅原佳世子 鈴木早苗 R.T 田口雅子 田邊英利子
土谷美保子 永作稔 中村恭子 中村康江 K.H 羽生賢次 林雄嗣・鈴子 福島晶子 堀田高秀
松田純子 三上美智恵 光永育 K.M 山家七恵 S.Y K.Y 吉岡玲子 吉田和充・淳子
館野泉ファンクラブ東京 館野泉ファンクラブ東北 タビオラの会 日本セヴラック協会
有限会社ムジカーザ NPO法人 Mプロジェクト スオミ・ピアノ・スクール研究会 (匿名希望 20名)

<ショパン・ピリオド楽器プロジェクト>

S.O 北村 真 トゥルラブ真智子 平山美由紀 (匿名希望 4名)

<ニュークラシックプロジェクト>

浅岡尚子 岩井睦雄 上原啓子 小田島容子 K.K 久保千聖 雲然祥子 小池美喜
篠崎啓史 I.S T.S トゥルラブ真智子 トゥルラブ真凛 T.N 長谷部宏行 秦勝重
T.H 林路郎 細沼康子 牧野佳那 松下泰之(マティビ) S.Y (匿名希望 14名)

2024年1月20日現在 敬称略

ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720

(平日11:00~17:00 年末年始を除く)

アーティストサポートの
詳細はこちらを
ご覧ください。

